Tochigi Cancer Center

1月号 2023 vol. 28

表紙写真：総合内科

がんセンターだより

Tochigi Cancer Center Dayori

P.1　・年頭所感
P.2　・総合内科のご紹介
P.3　・北関東骨軟部腫瘍ネットワークについて
P.4　・乳がん看護認定看護師　認定審査に合格しました
P.5-6　・AYA世代のがん患者さんとご家族に知ってほしい妊孕性温存支援の取り組みについて

Philosophy - Art - Humanity
TCC
Founded in 1986

地方独立行政法人
栃木県立がんセンター

年頭所感

　あけましておめでとうございます。新年にあたりご挨拶申し上げます。
昨年中には収束するかと思われていた、新型コロナウイルス感染症ですが、8月には第7波、年末には第8波に見舞われ、先が見えない中で、2023年を迎えることになりました。

　新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、当センターにも大きな影響を及ぼしています。現在、一部の病棟を閉鎖して新型コロナウイルス感染症対応を行っているところですが、本来のがん診療が限界に達しています。診療制限や体制の急な変更などにより、医療機関の皆様には大変ご迷惑をおかけしていることをここでお詫び申し上げます。がん診療の基盤を守るべく努めて参りますので、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

　県民の皆様に最新のがん医療を提供するため、昨年より5大事業（病院事業、研究事業、臨床試験管理事業、バイオバンク事業、がん対策事業）として、当センターが実施すべき事業を整理いたしました。特に希少がんや難治性がんに対して取り組みを強化し、可能な限り栃木県内で医療が完結するよう努力しているところです。また、昨年8月にはがん診療連携拠点病院等の整備指針が見直され、都道府県がん診療連携拠点病院としての当センターの責務が増してきています。重責を担う立場として、栃木県内のどこに住んでいる方でも適切ながん医療が受けられる体制の整備に取り組んで参ります。

　超高齢社会に突入したと言われて10年以上が経ちましたが、今後もがん患者さんの高齢化は進み、がんの診療も様変わりすると考えられます。さらに、実働の労働者の減少もあり、十分な医療者を確保できなくなる可能性があります。それらに対応するために、当センターにおいては医療DX*導入プロジェクトを開始いたします。課題は山積みで一朝一夕に導入できるものではありませんが、長期的な視野を持って検討を進めて参ります。さらに、近隣の医療機関や介護施設等の皆様との連携をますます強固なものとし、地域全体でより円滑で快適な医療体制を目指していけたらと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

　皆様のこの1年のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶に代えさせていただきます。

※医療DX：医療分野でのDX（デジタルトランスフォーメーション）
※DX：デジタル技術によって、ビジネスや社会、生活の形・スタイルを変える（Transformする）こと

地方独立行政法人栃木県立がんセンター
理事長兼センター長　尾澤　巖

総合内科のご紹介

総合内科 科長 岸川　孝之
呼吸器内科 副科長 兼務

「総合診療科」「総合内科」とは

「総合診療科」とは、あまりにも専門化・細分化しすぎた現代医療の中で、「全人的な視点」で、「特定の臓器・疾患に限定せず」多角的に対応する診療科です。未確診症例では、速やかに鑑別や診断を行い、治療を行う科です。「総合内科」はその中でもあくまで「内科」の範疇での総合診療を指します。

対象となる患者さん

対象となる患者さんは、当センターで治療中のがん患者さんです。内科的な疾病の慢性期の管理をはじめ、日常に生じる様々な問題に対して、主治医の先生と相談しながら対応させていただきます。

当センターにおける「総合診療科」「総合内科」の必要性について

我が国では少子高齢化が進み、複数の内科疾患を抱えたがん患者さんが増加の一途を辿っています。高齢者の方はもちろん、若い方においても仕事のため複数の医療機関への通院が難しい場合があり、「がん患者さんにおけるかかりつけ医」の存在が必要と考えます。がん患者さんが、がん以外の病気に罹患した場合に困らない様な体制が望まれます。

他の医療機関との連携

当センターで診断から治療までを一貫して対応できる体制を目指しますが、疾患の特殊性や重症度に応じて各診療科の揃う総合病院との連携が必要となります。特に、心筋梗塞などの虚血性心疾患や大血管疾患、超急性期脳梗塞、緊急手術の必要な脳出血などの、重大かつ治療を急ぐ急性期疾患は当院では管理ができないため、即座に診断と初期治療を施し、他院への搬送を行うなどの対応を行います。また地元にかかりつけ医をお持ちの患者さんは、病状が安定している場合はそちらで管理いただけるよう確実な連携を図りたいと思います。

2022年11月に発足しました

北関東骨軟部腫瘍ネットワーク

(Musculoskeletal Oncology Network in North Kanto: Monnk)

骨軟部腫瘍・整形外科 科長 菊田 一貴

2018年7月に当センターに骨軟部腫瘍・整形外科が開設し4年半が経過しました。骨軟部腫瘍・整形外科では、希少がんである肉腫患者の治療をおこなっています。この4年半に県内の肉腫患者の治療が県内で完結できるような体制を整えてきました。結果として、4年半で県内唯一の肉腫治療可能施設として、小児から成人までのすべての肉腫治療が当センターでは可能となっています。

このような体制作りに伴い、当センターで治療をおこなう患者数は年々増加しており、現在では、全国のHigh Volume Centerと遜色のない患者数の対応をおこなっています。一方で、患者数の増加に対して、当センターで治療にあたる肉腫専門医はわずか3名であり、多くの患者に対応するためのマンパワーの確保が大きな課題となってきています。また、終わりの見えない新型コロナウイルス感染症のパンデミック下で、早期に治療が必要な場合でも、治療を延期せざるをえない状況が生じることも多々経験し、その際に県内には他に肉腫患者を紹介できる施設がないことも課題となっていました。

そこで、このような課題を解決するため、北関東の県立がんセンターである、埼玉県立がんセンター整形外科、群馬県立がんセンター骨軟部腫瘍科と連携し、2022年11月にネットワークを発足しました。本ネットワークでは、各施設が有事の際に肉腫患者の受け入れを円滑にすること、治療にあたる肉腫専門医の施設を越えた人的交流、骨軟部腫瘍が扱う疾患に関する知識の啓発のための講演会や研究会、さらには多施設研究など各施設の垣根を越えた連携をおこない、栃木県のみならず、北関東全域の肉腫患者に、より良い肉腫治療が提供できる体制の構築を目指しています。

本ネットワークは英語でMusculoskeletal Oncology Network in North Kantoとなり、その頭文字をとってMonnk（モンク）と命名しました。モンクは僧侶という意味があること、また、肉腫征圧キャンペーンのテーマ色がひまわりをイメージした黄色であることから黄色い僧侶をイメージしたキャラクターを作成しました。本ネットワークの活動が北関東の肉腫患者のためとなり、また、多くの皆様に認知してもらえることを願っています。

Monnkに参加している医師

- 北関東圏の肉腫患者が北関東内で治療が完結できるように
- 栃木県、群馬県、埼玉県、茨城県
- 肉腫＝ひまわり、黄色

Monnk

- 治療して治す「Monnk」のイメージ
- 帽子に「Monnk」の「M」、胸に肉腫の患者を支える活動のシンボル「ひまわり」をつけている

乳がん看護認定看護師　認定審査に合格しました

この度認定審査に合格し、無事に乳がん看護認定看護師になることができました。

認定看護師教育課程で学んできたことを患者さん、ご家族、そしてコロナ禍の大変な中で研修へ行かせてくださった職場に還元し、支えとなれるように精進してまいります。不慣れなことも多いですが、今後ともよろしくお願いいたします。

看護師　小野口　香

当センターの専門看護師・認定看護師

現在、当センターには、専門看護師1名と認定看護師8分野15名が在籍しており、病棟や外来部門などで活動しています。（2023年1月現在）

- がん看護専門看護師……1名（兼がん化学療法看護認定看護師）
- がん化学療法看護認定看護師…3名
- がん性疼痛看護認定看護師……3名
- 乳がん看護認定看護師……2名
- 皮膚排泄ケア認定看護師……2名
- 緩和ケア認定看護師……1名
- 感染管理認定看護師……2名
- 手術看護認定看護師……1名
- がん放射線療法看護認定看護師…1名

専門看護師・認定看護師

AYA世代のがん患者さんとご家族に知ってほしい妊孕性（にんようせい）温存支援の取り組みについて

「AYA世代がん患者」という言葉をご存じでしょうか？

AはAdolescentの頭文字で「思春期」を、YAはYoung Adultの頭文字で「若年成人」を指し、日本では15歳から39歳までのがん患者さんを示す言葉です。AYAと書いて「アヤ」と読みます。

この時期は、進学、就職、結婚、子育てなど、人生の方向性を決める重大なライフイベントが多くある年代ですが、がん患者全体からすると患者の数が少ないことや、がん種は多種多様で希少なものが多いといった特徴があります。

患者さんの抱える困りごとは、成人・高齢の患者さんと似たようなこともあれば若年世代特有のものもあり、医療的なことでない悩みも多いことから、多職種のスタッフでサポートを行っています。

中でも、妊孕性*に関する相談は、ちょうど生殖年齢にあたるAYA世代がん患者さんにとって特有の課題です。

当センターでは、看護師や相談支援センターの相談員などがご相談をお受けしているほか、心理士によるサポートも開始しました。

*妊孕性（にんようせい）…男女を問わず、妊娠するための力のことを指します。また、治療前や影響が少ない時期に、精子や卵子（卵巣組織）を凍結保存しておくことを妊孕性温存（にんようせいおんぞん）といいます。

栃木県 がん・生殖医療ネットワークの活動を紹介します！

県内のがん患者さんのための生殖医療の充実と発展を目指し、栃木県がん・生殖医療ネットワークが2019年12月に発足しました。

当センターはネットワークの事務局を担当し、普及啓発活動やがん治療医と生殖医療専門医との連携の促進、医療従事者に対する研修会などを通して、県内における小児・AYA世代のがん患者等の方に向けた生殖機能の温存に関する支援を行っています。

その取り組みの一環として、2021年度に当センターの公認心理師が「がん・生殖医療専門心理士」の資格を取得しました。現在日本全国で61名の資格取得者がおりますが、栃木県内では初めてとなります。

がん・生殖医療専門心理士は、がん告知という大きなストレスと妊孕性の低下や消失という二重の危機を抱えた若年がん患者さんに対して、必要なサポートを行いながら正しい医療情報の提供や理解を助け、家族間調整なども行いながら患者さんの自己決定を支援する専門資格です。

今後は、その専門性を活かしながら、院内だけでなく県内のAYA世代がん患者さんの心理社会的サポートに対しても、より良い支援ができるように取り組みを進めていきます。

妊孕性温存治療への助成事業に、がん治療後の移植治療への助成が加わりました！

栃木県では、2021年4月から、がん患者等の妊孕性温存治療に対する助成が受けられるようになりましたが、2022年4月からは、がん治療が終わった後で生殖補助医療*による妊娠を試みる場合にも、助成が受けられるようになりました。

＊生殖補助医療…凍結しておいた胚や卵子、精子を用いた人工授精、体外受精、顕微授精による移植や、凍結しておいた卵巣組織の移植手術

▶助成内容

凍結した受精卵での生殖補助医療	凍結した未受精卵子での生殖補助医療	凍結した卵巣組織での生殖補助医療	凍結した精子での生殖補助医療
10万円	10万円～25万円	1万円～30万円	1万円～30万円

▶助成対象

※以下の項目を全て満たす方

1. 申請日に栃木県内に住所がある方
2. 生殖補助医療開始時に妻の年齢が 43 歳未満の方
3. 助成対象の妊孕性温存療法により凍結保存された胚（受精卵）・未受精卵・精子を用いた生殖補助医療を受けた方
4. これ以外の治療法では、妊娠の見込みがない又は極めて少ないと診断された方
5. 医師から温存後生殖補助医療を受けることが許可された方
6. 県が指定する温存後生殖補助医療実施医療機関で治療を受けた方
7. 助成対象治療について、他の制度に基づく助成を受けていない方

※❸～❺は、夫婦（事実婚も含む）のいずれかが該当していること

その他（助成回数など）、詳しくは、**栃木県ホームページ（温存後生殖補助医療への助成について）**をご覧ください。

また、ご不明なことやご心配なことがありましたら、お気軽に「がん相談支援センター」にご相談ください。

お問い合わせ先

妊孕性に関するご相談/栃木県がん・生殖医療ネットワーク
☎028-658-6484（平日8時30分から17時）
栃木県立がんセンター　がん相談支援センター

もっと詳しく知りたい方へ（Web 情報）

◀ 栃木県ホームページ
※申請様式は栃木県のホームページからダウンロードできます。

◀ がん情報とちぎ

◀ 国立がん研究センター がん情報サービス

医療機関の皆様へ予約窓口のご案内

ご紹介いただきありがとうございます。当センターでは、患者さんの症状やご希望に応じた外来診療予約を心がけております。ご予約の際は、下記までご連絡ください。

予約センター　☎ 028-658-5012

受付時間　平日 ⏲8:30 から 16:30

※当センターは、初診、再診ともに予約制となっています。予約センターにお電話のうえ、受診日をご予約ください。また、予約枠に制限があり、ご希望に添えない場合もあります。予めご了承ください。

～当日、患者さんにお持ちいただくもの～

- □保険証、各種医療証
- □診療情報提供書（紹介状）
- □各種検査結果、画像データ（お持ちの方のみ）
- □お薬手帳（お持ちの方のみ）
- □当センターの診察券（お持ちの方のみ）

●病診連携に関するお問い合わせ

地域連携センター

☎ 028-611-5503

平日 ⏲8:30 から 17:15

●がんに関するご相談

がん相談支援センター

☎ 028-658-6484

平日 ⏲8:30 から 17:00

●がんの遺伝カウンセリングや、ゲノム医療についての予約やお問い合わせ

ゲノムセンター

☎ 028-611-5480

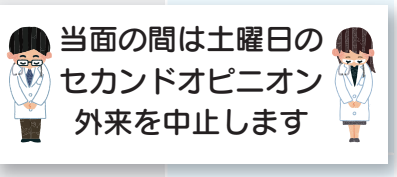
平日 ⏲8:30 から 17:00

セカンドオピニオン外来のご案内

■平日午後

		月	火	水	木	金
消化器外科	主に胆・膵			菱沼　正一		
	主に肝			尾澤　　巌		尾澤　　巌
	主に大腸				藤田　　伸	
	主に食道・胃				松下　尚之 藤田　　剛 林　　雅人 （※週毎の交代制）	
頭頸部腫瘍・耳鼻咽喉科					横島　一彦	横島　一彦
骨軟部腫瘍・整形外科		菊田　一貴				

■土曜日午前



※予告なく変更となる場合があります

予約センター　☎ 028-658-5012（直通）　受付時間　平日 ⏲8:30 から 16:30

交通のご案内

電車・バス

●JR宇都宮線「宇都宮駅」より

⇒西口から関東バス「江曽島行（11番のりば）」に乗車。「がんセンター前」で下車。横断歩道を渡る。徒歩1分。（乗車時間約25分）

●東武宇都宮線「江曽島駅」より

⇒東口から関東バス「JR宇都宮駅行」に乗車。「がんセンター前」で下車。徒歩1分。（乗車時間約5分）

自動車

●東北自動車道「鹿沼I.C.」より

⇒東北自動車道「鹿沼I.C」より宇都宮方面へ。「滝谷町」交差点を右折南進し、JR陸橋を超え3つ目の信号「八千代1丁目」を左折。（約9.4㎞）

⇒東北自動車道「鹿沼I.C」より宇都宮方面へ。「宮環鶴田陸橋」を右折。「下砥上町」アンダーに入ってすぐ江曽島方向へ左折し7つ目の信号を左折。（約8.2㎞）

がんセンターだより Tochigi Cancer Center Dayori vol.28

1月号　令和5年（2023）1月31日発行

発行　地方独立行政法人栃木県立がんセンター 広報広聴センター
〒320-0834 栃木県宇都宮市陽南4-9-13
TEL. 028-658-5151（代）FAX. 028-658-5669

がんセンターの情報は　栃木県　がん　検索　URL http://www.tochigi-cc.jp